

三島駅南口開発

市民2団体が独自案発表

市長交え意見交換も

三島駅南口の開発について市民がアイデアを発表する会が13日夜、三島市民文化会館で開かれ、市民グループ2団体が独自の案を披露した。豊岡武士市長も参加し、市が現在推進している開発計画を説明した。



三島駅南口の開発に関して意見を交わす登壇者
＝三島市民文化会館

同市のNPO法人地域活性スクランブルフォーラムが主催した。約350人の聴衆が見守る中、「三島駅南口の整備を考える市民の会」と「三島の30年後を語り合う若者の会」が壇上で案を説明した。市民の会の渡辺豊博代表は「三島のまちづくりの特徴は平面的であること、市民が汗を流してきたこと」と指摘。市がモデル案として示した高層マンション計画を批判し、市民不在で事業が進むことを危惧した。

若者の会の石井真人代表は、10～15年後に迫る市庁舎の建て替えを南口開発と同時に行うべきと主張。建設費用が高騰する2020年東京五輪前の着工を見送った上で、生涯学習センターや保健センターなどの機能を整理し、図書館や子育て支援センターを南口に置く案を示した。

豊岡市長はアイデア発表後のシンポジウムにも出席し、出席者の質問や意見に答えた。南口開発は東日本大震災とリーマンショックの影響で2度計画が頓挫していることを引き合いに出し、「民間業者が意欲を示している今を逃すと、また10年先、20年先になる恐れがある」と強調。市が持続的に発展するために南口の開発が必要と理解を求めた。

調。市の人口減少や産業の縮小傾向にふれ、「市が持続的に発展するために南口の開発が必要」と理解を求めた。

(三島支局・市川雄二)